資料１

彦根愛知犬上地域
新ごみ処理施設整備事業に係る基本設計
検討結果の概要報告

令和3年12月12日

彦根愛知犬上広域行政組合

目次

1.整備する施設について…… 2

2.造成基本設計図について…… 4

3.軟弱地盤対策について……10

4.工事用道路計画について……14

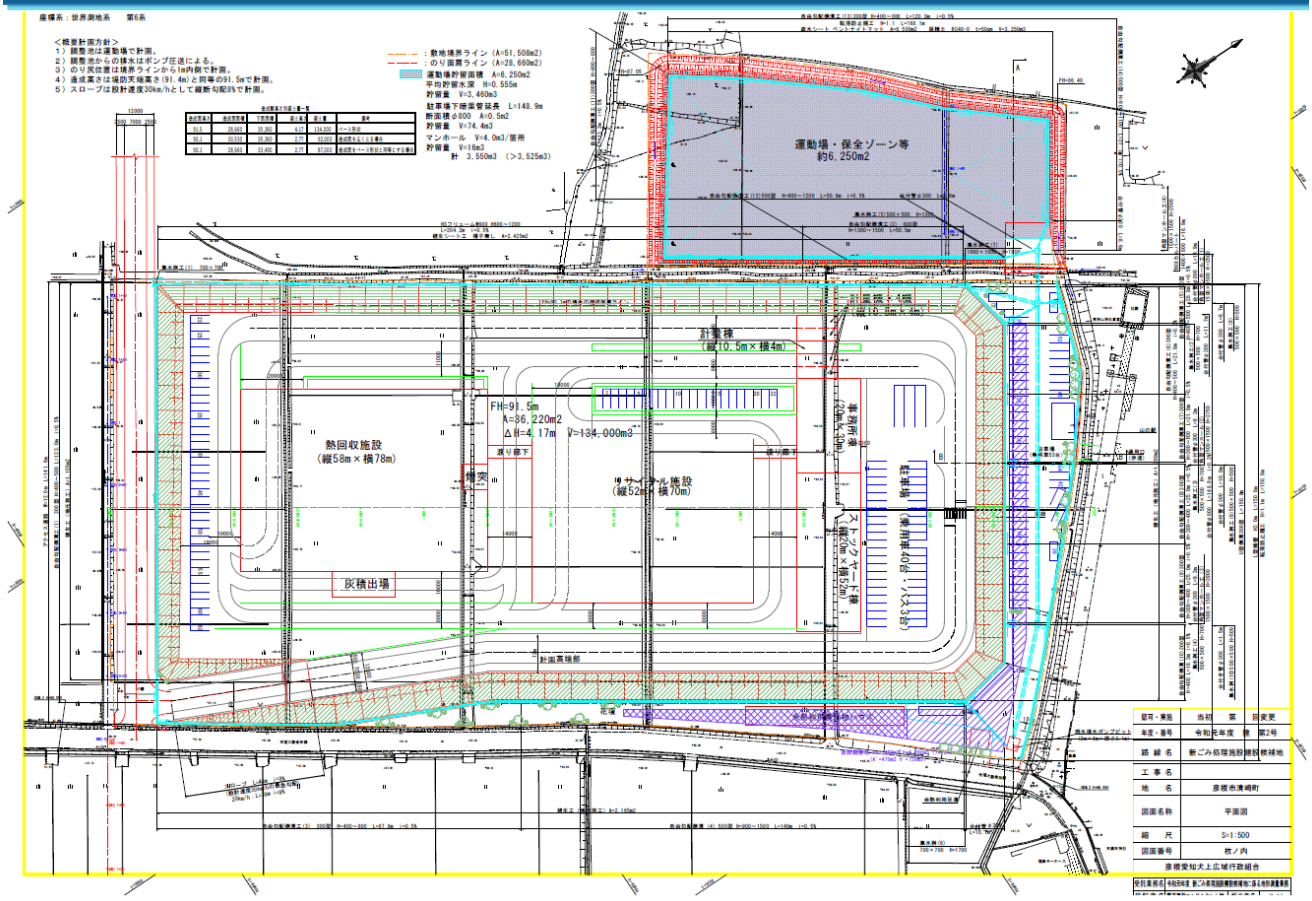
1. 整備する施設について

整備する施設の内容等

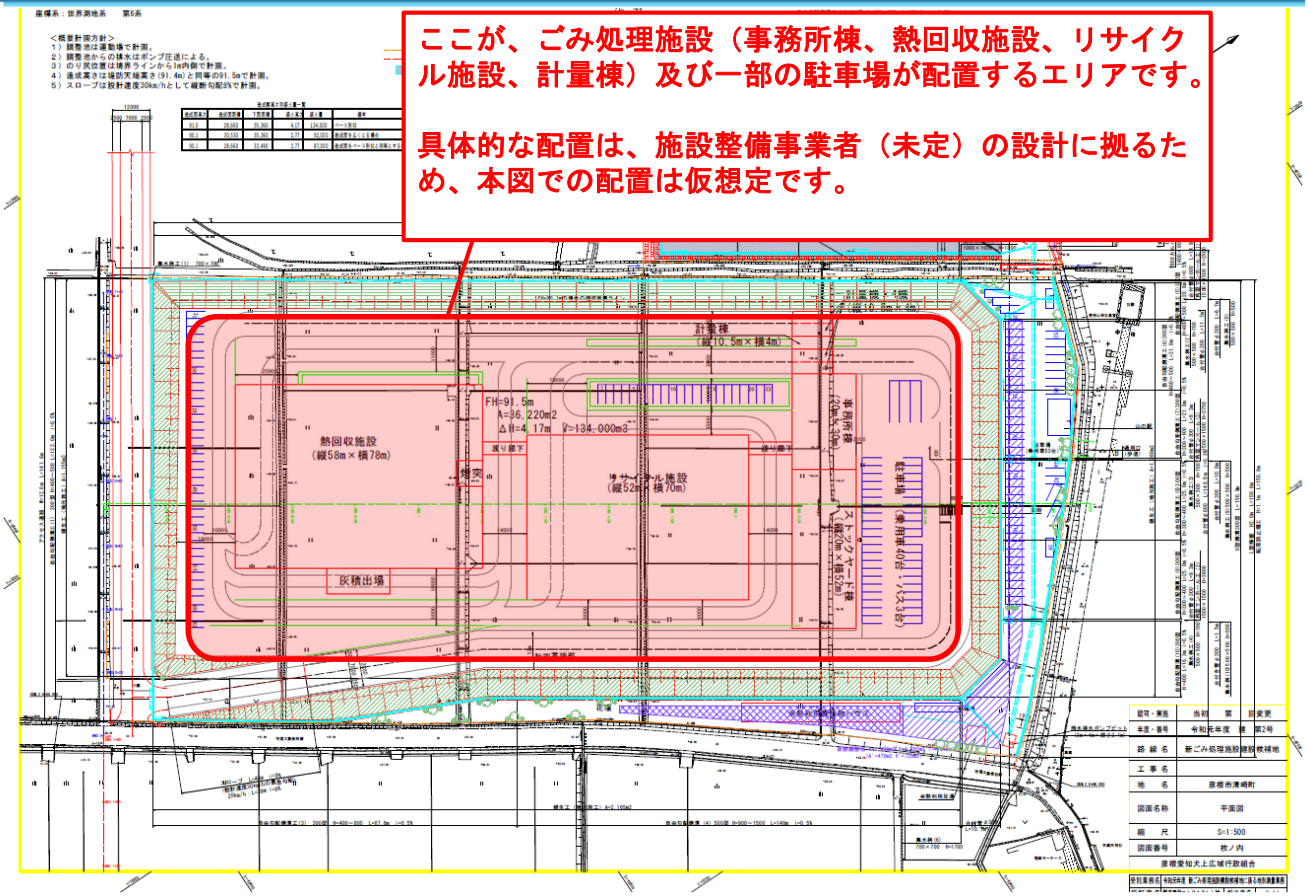
名称	施設概要
事務所棟	本組合の事務所や見学者説明室等のある管理棟を設けます。
熱回収施設	処理能力は施設整備基本計画で定めた「147t/日」以下の焼却施設とします。高効率なエネルギー回収・発電を行う施設とします。 見学施設、環境学習施設を含み機器配置にゆとりのある面積とします。
リサイクル施設	粗大ごみ・不燃ごみ・資源ごみを処理するために必要な規模の施設とします。各種保管のためのストックヤードも併設します。 処理能力は施設整備基本計画で定めた「35t/日」以下の施設とします。
計量棟	入口2基・出口2基の計量機を設けます。全面に大屋根を設けます。
山の駅	荒神山登山者への情報提供や、地域住民が利用できる便所を含む建屋を、敷地北側通用口近辺に設置します。
駐車場	来場者用及び組合職員用（乗用車40台分・大型バス2台分）、事業者職員用（必要数）の他、地域来訪者用（50台以上）を設けます。
緑地	植栽、芝張（運動場兼調整池部分を含む）等を設けます。
門・囲障	正門を1箇所、敷地外周にフェンス を設置します。
通用口	地域来訪者用駐車場や運動場兼調整池にアクセスしやすい位置（敷地北東角及び北側等）に出入口を2箇所設ける。
案内サイン等	施設案内サイン、カーブミラー、屋外掲示板等を設置する。
雨水排水設備	調整池（兼運動場）の他、宇曽川への専用ポンプ排水設備を設けます。

2. 造成基本設計図について

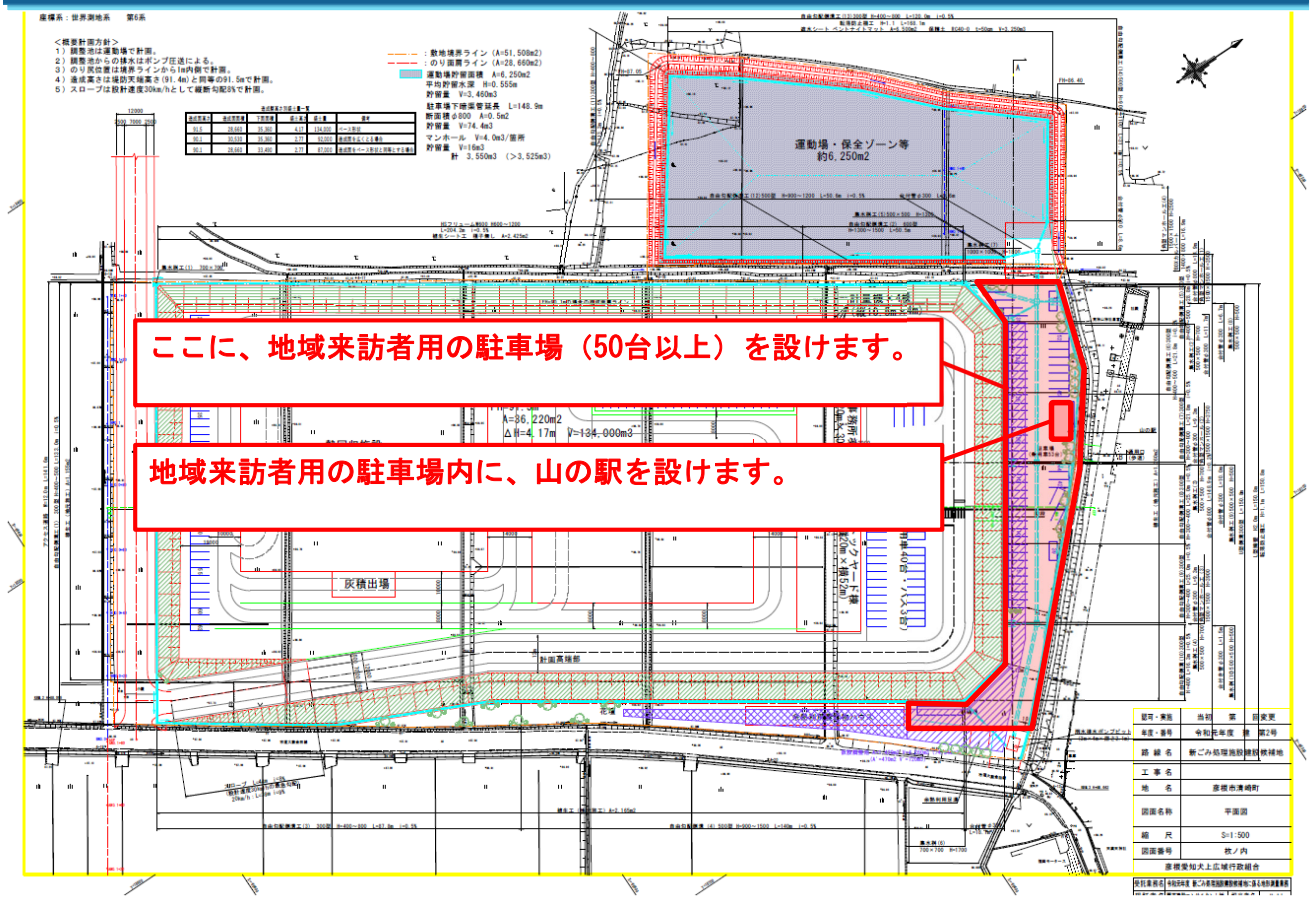
造成基本設計図（施設の建物配置は仮想定）



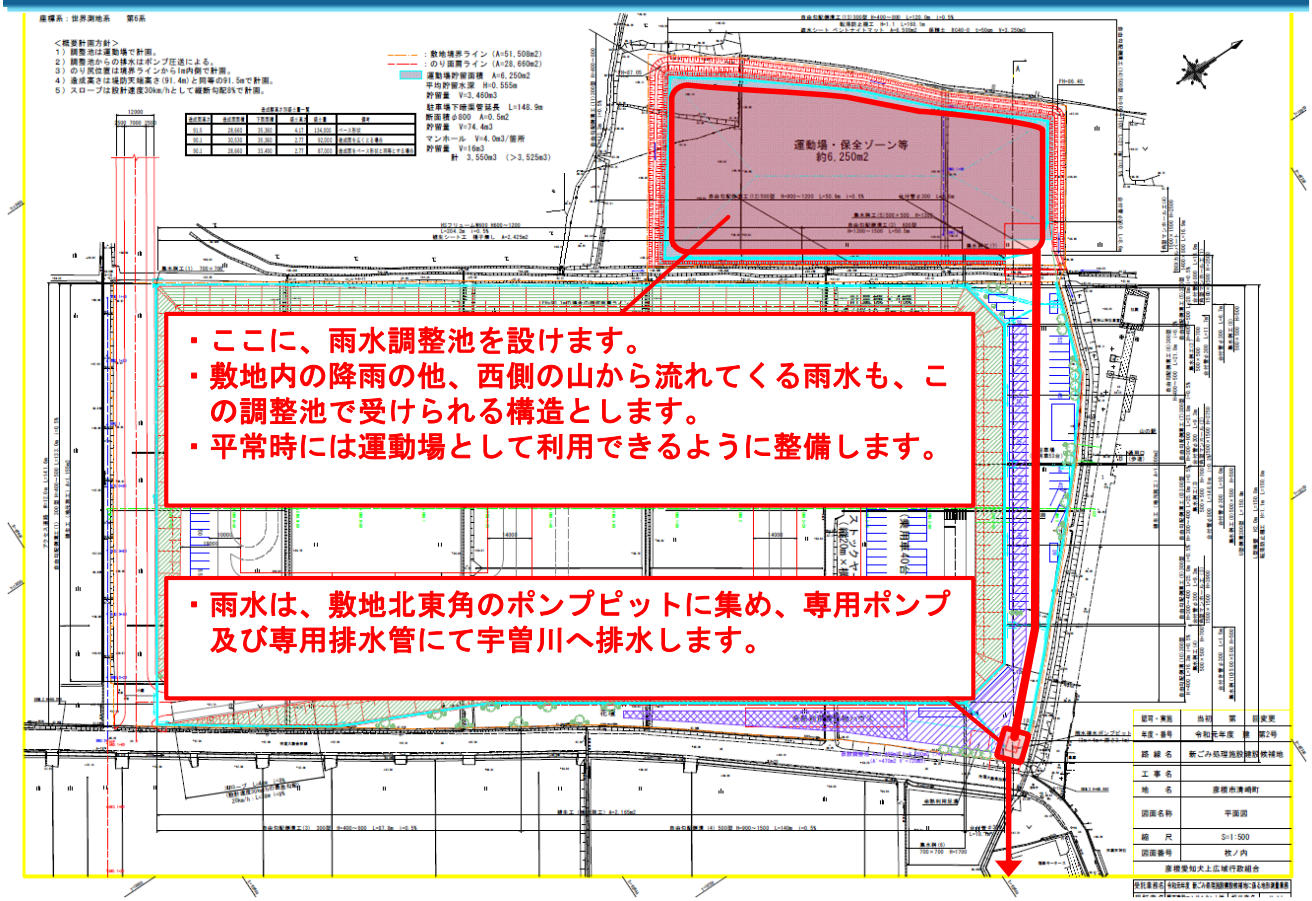
建物の配置エリア（施設の建物配置は仮想定）



地域来訪者用駐車場・山の駅



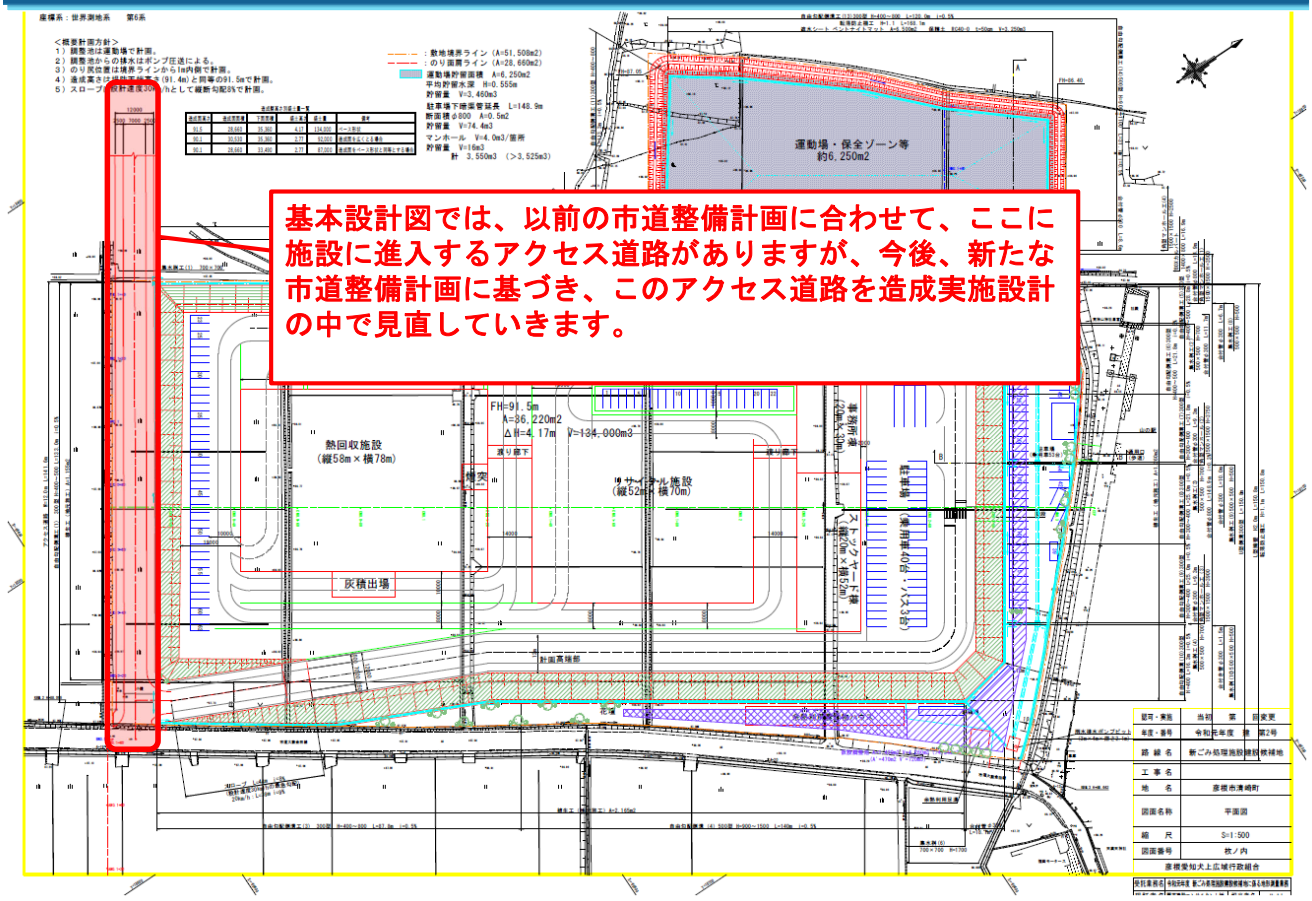
雨水排水設備



・ここに、雨水調整池を設けます。
・敷地内の降雨の他、西側の山から流れてくる雨水も、この調整池で受けられる構造とします。
・平常時には運動場として利用できるように整備します。

・雨水は、敷地北東角のポンプピットに集め、専用ポンプ及び専用排水管にて宇曽川へ排水します。

アクセス道路（見直し予定）について



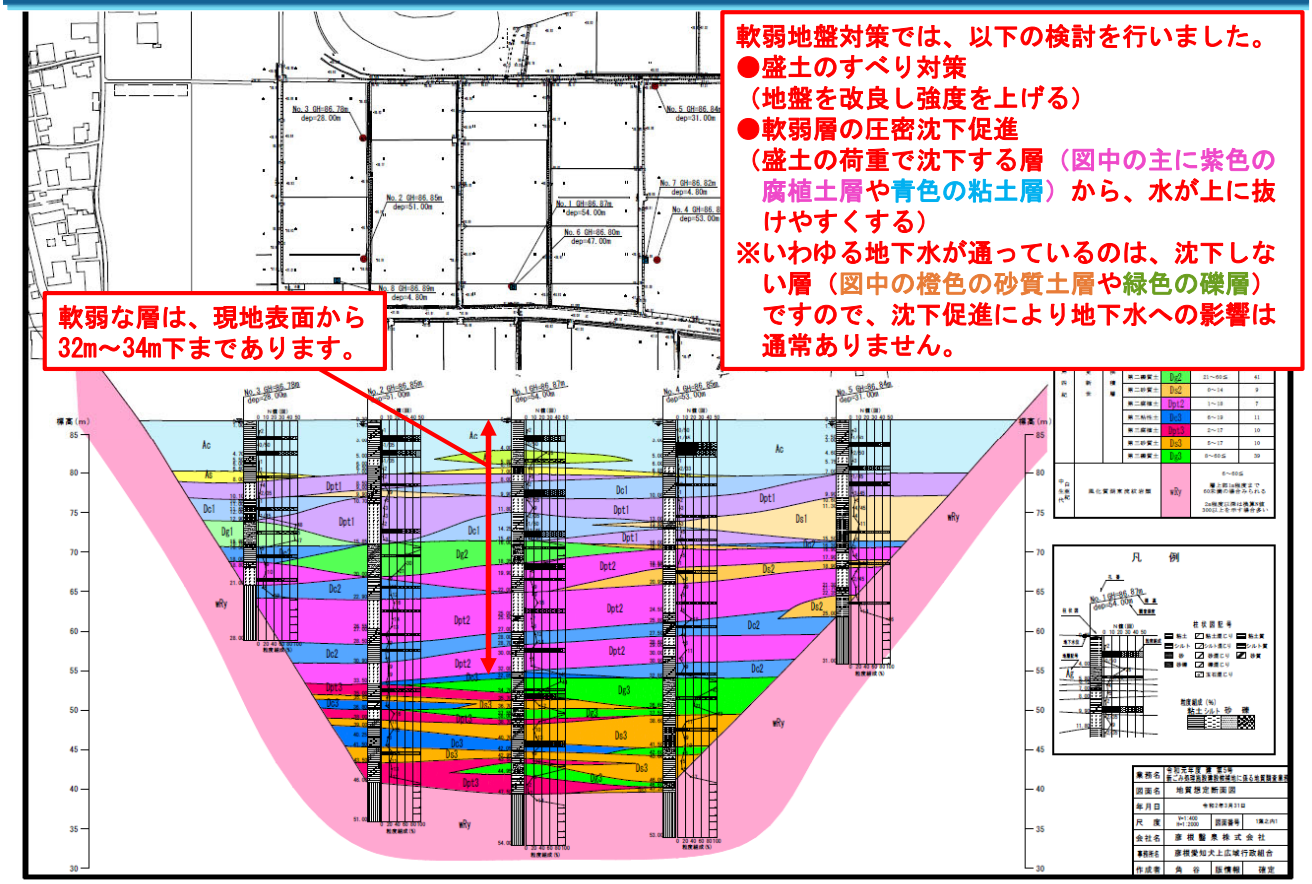
基本設計図では、以前の市道整備計画に合わせて、ここに施設に進入するアクセス道路がありますが、今後、新たな市道整備計画に基づき、このアクセス道路を造成実施設計の中で見直していきます。

3. 軟弱地盤対策について

想定地質断面

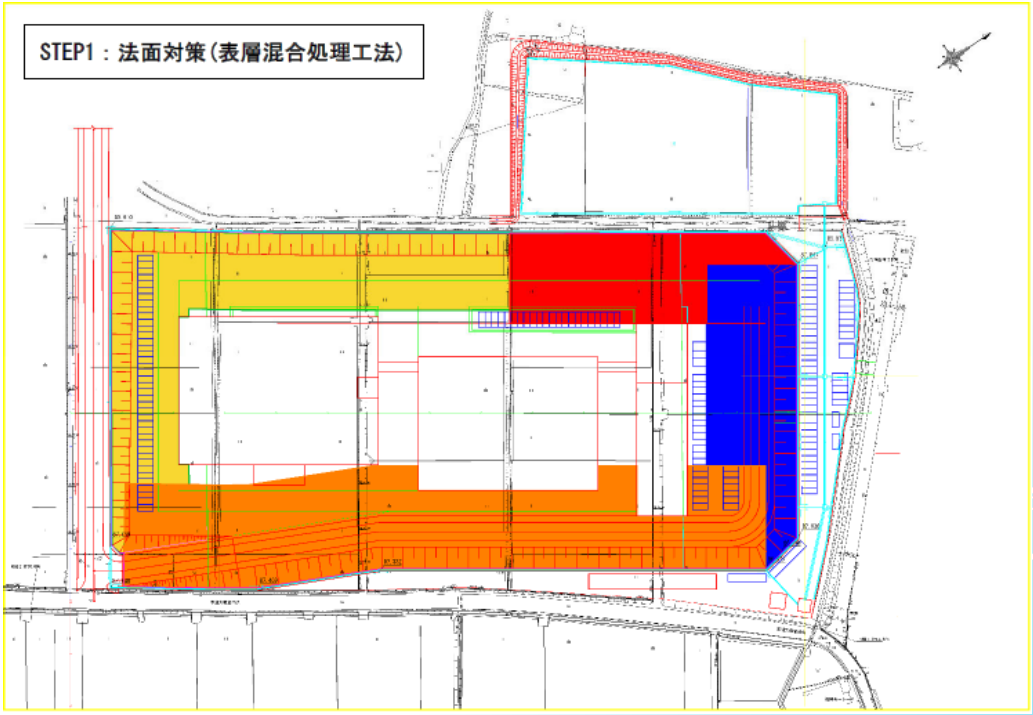
軟弱地盤対策では、以下の検討を行いました。
●盛土のすべり対策
（地盤を改良し強度を上げる）
●軟弱層の圧密沈下促進
（盛土の荷重で沈下する層（図中の主に紫色の腐植土層や青色の粘土層）から、水が上に抜けやすくする）
※いわゆる地下水が通っているのは、沈下しない層（図中の橙色の砂質土層や緑色の礫層）ですので、沈下促進により地下水への影響は通常ありません。

軟弱な層は、現地表面から32m～34m下まであります。



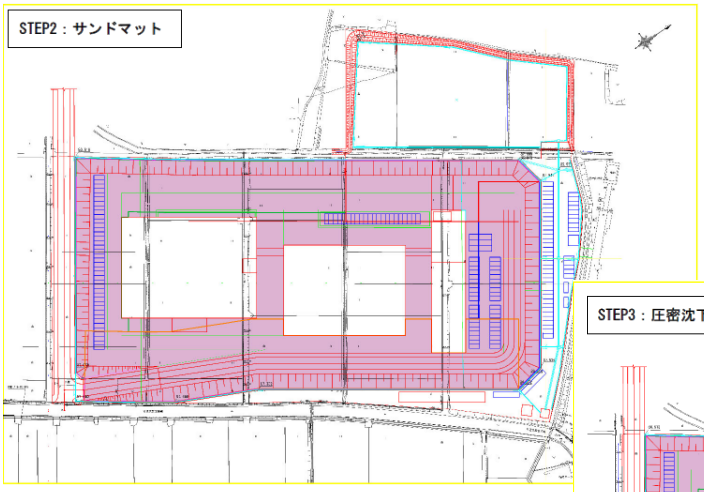
軟弱地盤対策（すべり対策）

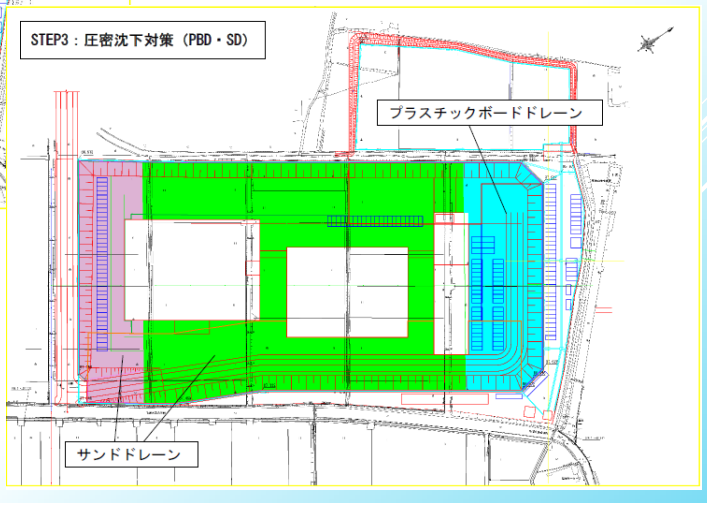
●盛土のすべり対策
　図中の着色エリア（盛土の法面を含む範囲）の表層土を改良して地盤の強化を図り、盛土の荷重による「すべり」が起きないようにします。



軟弱地盤対策（圧密沈下促進）

●軟弱層の圧密沈下促進
　図中の着色エリアに、盛土の荷重により水が抜けるようにする対策（サンドマット、サンドドレーン、プラスチックボードドレーン）を行います。





4. 工事用道路計画について

工事用道路計画

●工事用道路計画に当たっての考え方

- 今回の工事を進める中で特に工事用車両台数が多くなるのは、盛土のための土砂搬入時や、施設のごみピット用の生コンクリート搬入時となります。（具体的な想定台数は、現在、プラントメーカーに確認中です。環境影響評価準備書の説明会ではお示しします。）

- 以上より、現時点で想定している工事用車両の通行ルートは、可能な限り現道を利用する方針として以下のとおり考えています。

  - 進入車両は、県道2号の新大山橋より、敷地から南方にある「山崎山」東側の道路（宇曽川左岸堤防道路）に進入・北上し、堤防道路より敷地南東側角への工事用道路（本事業の初期に整備する）を用いて、敷地南東側角に至る。

  - 退出車両は、敷地南東側角から市道大藪金田線を北上し、途中から工事用道路（本事業の初期に整備する）を用いて、宇曽川左岸堤防道路に出た後、堤防道路を北上し、新橋を通り、県道2号に出る。

- 今後、交通量調査を踏まえ、工事車両通行による周辺交通への影響を予測します。